

*アドリブで発言している箇所があり、この原稿通りではない部分がありますので、ご了承ください。

市民派クラブの中西智子です。

第54号議案 業務委託契約一部変更の件について、反対の立場で討論いたします。

この議案は、主に北大阪急行線延伸工事費を、車両費を含めて650億円から224億円増の874億円とするため、委託契約において、契約金額の変更を行うというものです。

北大阪急行線延伸工事費について、これまで市からは、資材費や人件費の高騰分は600億円の中に含まれているという説明を受けてきました。

昨年度の交通対策特別委員会では、全体の建設費は600億円で変更がないと報告されています。全体事業費の今後の見込みについても、設計基準を道路基準に変更したことによる橋脚上部の構造変更、この経費約30億円と、物価上昇などによる影響額約7億円が見込まれることに加えて、3年延期理由である地中障害物の撤去、土留め壁あるいはコンクリート擁壁を含めても総事業費の650億円に変更はない、と市は言い切っていました。「設計積算の見直しを進めてきた結果、落橋防止装置や橋桁の上部工の金額につきまして精査が完了しましたので」という答弁でした。精査が完了したはずの工事費が、さらに増額になっているというのは、精査が甘かったのではないかと思わざるを得ません。

また同委員会においては、今後の増額見込みについて、「既に掘削工事など工事着手前に見えていなかった作業についてはおおむね完了しているため、今後の増額リスクについても一定の目途がついたものと考えている」との答弁があり、「市施行のインフラ工事については、関係者と協議を密に行うことで、工事費の抑制に努めるとともに、北大阪急行電鉄が今後発注するインフラ外工事について、工事内容を精査したうえで、総事業費の縮減に努めて600億円の範囲になるように関係者と協力して事業を進める」というような答弁でした。

市のいうところの「精査」とはどのようなものなのか、昨日の質疑を聞いていても分かりませんでした。大阪メトロからは2020年には58.2億円の増額、その5日後に72.5億円の再増額が示され、その根拠が示されないまま、1年後には120.8億円の増額となり、北急電鉄からは75.4億円の増額、車両費は50億円から63億円と13億円も増額になっています。関係者と協議を密にして精査してきたはずであるのに、大阪メトロからは、根拠が示されないまま、増額提示が繰り返された、という市の説明でしたが、議会には1年間も知らされませんでした。

市がいう「精査」の具体について、どのような体制で精査したのか、また設計や施工方法について、どのように検証されてきたのかは、説明されませんでした。

また、今後の体制についても、具体的な提示はなく、午前中の名手委員の質問で、第三者機関の設置については否定したのに、午後からの質問に対しては設置を検討するという答弁があるなど、とても場当たりの答弁でありました。

また、増額分の財源については、競艇事業費からの繰り入れがあるから大丈夫であるという説明でしたが、ギャンブル依存症が深刻な問題となっているにも関わらず、公営ギャンブルをさらに拡大させることが前提となっており、この点においても非常に懸念いたします。

一方で、新改革プランにおいて、効率的行政運営を謳っているにも関わらず、特別チームは僅か4名の事務職だけというもので、しっかり精査を行う体制であるとは思えないものでした。もちろんこの担当職員の方々は非常に努力されていたと承知しており、敬意を表しますが、現状では市が本気で精査を行ったという評価には至っておりません。

私はこれまでも、第三者におけるチェック体制を訴えてきましたが、メトロに任せているから大丈夫、というのが市の考えでした。

そもそも、工事費の増額が発生するかもしれない、ということについての認識はどうだったのでしょうか。増額の可能性を自覚しながら600億円を超えた分は箕面市が負担する、という4者による基本合意書の内容は、箕面市にとって極めてリスクの高いものだったといえます。考えが甘かったのか、増額になってにもかかわらず延伸を実現させたかったのか、でしょう。

工事費224億円の増額について、市や私たち議員は市民の方々に対して説明責任を負っています。

昨日の特別委員会での質疑を聞きながら、それぞれの増額される工事等の内容について、議会はもっと精査しなければならないと痛感しました。議案提案から、わずか1週間では時間が足りません。資材や人件費の高騰分の精査も含めて、開示請求が必要になってくるものなどもあるでしょう。しっかり精査するためには、もう少し時間が必要です。

3月末日までに本議決が必要との件については、市の答弁では議決できない場合は、確実に工事が遅れる、また国からの交付金が得られなくなる、という明確なご答弁ではありませんでした。

今、ここで立ち止まり、しっかり精査することが、今後の適正な工事費に繋がるものと考えます。現時点では、市の説明は不十分であり、増額について私は責任をもって認めることはできません。あらためて議会としての責任をはたすべく、しっかり精査しなければならないため、現時点で早計にこの議案に賛成することはできません。以上、反対討論といたします。